

Tibet Tibet

チベットがグッと身近になる、素直な作品。

旅を通じて見えてくる、チベットの“声”と“民族性”——。

ノンフィクションロードムービー『チベットチベット』。2008年6月より上映開始！

「彼らが命がけで守ろうとしているものは一体何なんだろう？
おじいちゃんやおばあちゃんが僕に言い続けた、
民族の誇りというものなのだろうか？」

まずはチベット問題を“知る”。その後、自分の小さな力を信じたい。そんな要素がこの作品にはあります。

●作品概要

この作品に描かれているのは、一個人の目線による素顔のチベット。在日コリアン三世というアイデンティティを持つ監督は、モンゴル遊牧民のテントでダライラマ14世の写真を見かける。導かれるように北インドへ行き、チベットの人々の想いと現状を知る。そして、チベットへ——。ダライラマ14世や亡命者の声に「民族性」を考えながら、やがて自分自身の問題とも向き合っていく。

●上映情報 ※イベント上映

2008年6月7日(土)～6月27日(金) 渋谷アップリンクX

当日料金：一般1,500円、学生1,300円、シニア1,000円、中学生以下800円

6/7～20 11:00、16:30 6/21～27 16:30 会期中トークショーを予定

2008年6月21日(土)～7月5日(土) 横浜ジャック&ベティ

2008年7月26・27・8月2・3・9・10日 ポレポレ東中野 ※

●作品基本情報

監督・撮影：キム・スンヨン(金昇龍)／製作：RAGOS／2008年再編集作品
／チベット／Video／カラー／85分／16:9／言語：日本語・英語・チベット語・中国語／プロデューサー：キム・スンヨン、田中瑠佳／編集：梶愛、比嘉賢史／音楽：大久保智之／協力：チベット亡命政府、ルンタプロジェクト／配給：KOKIHI INC.／公式ホームページ <http://www.tibettibet.jp>

●キム・スンヨン 監督プロフィール

1968年生まれ。滋賀県出身の在日コリアン三世。1997年、世界旅行の途中でチベット問題と出会い、衝撃を受け、撮影を開始。チベット亡命政府の協力を得て、ダライラマ14世に10日間の同行取材を敢行。第二回監督作品に、ボアダムスのYoshimiが音楽を担当した『雲南 COLORFREE』がある。現在、インド放浪の旅の魅力を存分に伝える、笑えるドキュメンタリーを制作中。

●実績

『チベットチベット』は2001年に完成。自主上映の輪が広がり、現在までの観客動員は4万人以上。2008年3月のチベットでの暴動以降、全国より問合せが殺到。現在、毎週のように上映イベントが行われ、日々観客動員を伸ばしている。

2002年台湾国際ドキュメンタリー映画祭正式招待、オープニング上映／2004年東京平和映画祭、クロージング上映／

2005年山形国際ドキュメンタリー映画祭正式招待／2007年オレゴンTAC映画映像祭、観客賞(最高賞)受賞

「私たちに第三の道がある。そう予感させる映画。」田口ランディ(作家)

怒りはとてもやっかいな感情です。理不尽な加害者に対して被害者は闘うことによって謝罪を求める。相手をねじふせ打ち負かそうとする。でも、それはなぜかむなし。在日韓国人三世として生まれた<金森太郎こと金昇龍>はそのむなしさを知っていたと思う。勝ち負けを超えた「祈り」によって迫害を乗り越えようとするチベット民族が、この青年をどう変えたのか。ささやかだけれど、私たちに「第三の道」がある。そう予感させる映画です。

【本件に関する報道関係問合せ先】

『チベットチベット』広報・プレス：小久保 TEL 090-9682-6943 FAX 03-3978-8065 MAIL yoshino@picogram.jp

